国立研究開発法人科学技術振興機構
科学コミュニケーションセンター

科学技術コミュニケーション推進事業機関活動支援型
平成 26 年度採択企画
実施報告書

１．企画名

シンポジウム「ビッグデータは何をもたらすのか～統計学と計算機科学の知見から～」

２．提案機関名

大学共同利用機関法人　情報・システム研究機構

３．提案企画の概要

統計数理研究所は、1944 年に創設された統計数理に関する我が国唯一の統計科学の研究教育機関である。近年、ビッグデータに注目が集まるなか、ビッグデータ分析が与える影響は社会の奥深くにまで及ぶ本質的なものであり、統計数理研究所はデータ分析をおこなう専門職の在り方や育成にも積極的なコミットを開始した。

本提案は、研究機関や大学、企業、そして広く市民とデータ分析に関する議論をおこなう場を設け、ビッグデータ分析周辺の社会課題を解決することを目的とする。このため、2 回のクロストーク型シンポジウムを開催する。第 1 の目的は、データ分析する側の立場になってデータ分析の専門家育成のあるべき姿を明らかにすることである。第 2 の目的は、逆にデータ分析の対象になりえる国民側の視線になって、データ分析自体が守るべき社会規範とそれに関する統計科学、計算機科学の貢献を明らかにすることである。

４．企画の特徴

データ分析される側の立場からのクロストークは特徴的である。そして、社会や国民がデータ分析に対して懸念する事項を議題に乗せることは挑戦的な試みと言える。

また、我が国の統計学・計算機科学研究を代表する研究機関であるにもかかわらず、知名度が低い現状を考慮すると、ビッグデータ利活用に関する本シンポジウムを通じて、統計数理研究所のプレゼンスを高めると同時に、統計科学研究とその高等教育の重要性について社会に訴求することも特徴と言える。 そして、実施主担当者もそうであるが、いわゆる古い計算機を扱ったことが無い。一方で、このような歴史があるからこそ、今の計算機につながっているわけで、計算機科学の歴史を目に見える形で展示したいと考

えている。専任教員と相談のうえ、統計数理研究所がアーカイヴとして保有している（例年、オープンハウスやSSH見学ツアー等で限定公開している）代表的な計算機を選定し、シンポジウム会場で展示したい。

５．総合所見

概ね目標とする成果が得られた。

近年注目を集めているテーマに焦点を当てて目標設定している点や、ビッグデータ分析の重要性、人材育成について議論を深めた点は評価できる。しかしながら、双方向コミュニケーションについてはより強化が望まれる。

今後は、シンポジウムの次のステップとして、業界や市民、生活者など幅広い層に対して解りやすくその内容を伝え、社会問題解決やビックデータ活用の合意形成に繋げていくところまで伸ばしていただきたい。さらに、ビッグデータを利用する側と利用される側の関係について検討を行い、参加型のワークショップを実施していただきたい。

６．実施者からＰＲ・感想について

今回の企画は、近年注目を集める「ビッグデータ」に関する２つのトピックについて、その重要性について２回のシンポジウムを通じて、広く社会に発信するという目標を掲げました。特に社会人、大学生といった本事業のメインターゲット層とは異なる層にアプローチし情報発信する、という意欲的な取り組みであったと考えております。両日とも多くの方にご参加いただき、参加者間で情報共有、意見交換することができました。近年のビッグデータに対する高い関心の裏側では、データ分析の対象となる側のデータ保護、データ分析人材に関する懸念も多くあります。今回の企画では、それらの懸念を払拭するべく、関連する多くの分野で研究・教育が進められていることをアピールできました。統計数理研究所では、今後もビッグデータを含めた統計数理に関する様々なトピックについて、情報を発信していきます。

［シンポジウムの様子］

［講演の様子］

以上